

令和4年度 優秀映画鑑賞推進事業

第21回

市民会館 名画劇場

日本映画の量産時代に登場した監督たちが、
喜劇映画のなかで
新たな挑戦を試みた秀作を紹介。

2022年 9/22(木)・23(金・祝)

下関市民会館 大ホール

鑑賞料 全席自由 1日券 500円

上映スケジュール

22日(木)	10:00~11:50	「おかしな奴」
	開場9:30	13:00~14:30 「喜劇 急行列車」 14:40~16:11 「吹けば飛ぶよな男だが」
23日(金・祝)	10:00~11:50	「おかしな奴」
	開場9:30	13:00~14:29 「あゝ軍歌」 14:40~16:10 「喜劇 急行列車」

【注意事項】 昼食・飲み物は持参可能
※ただしホール内は飲食禁止のため、大ホールロビーをご利用ください。

チケット発売日 8月1日(月) ※発売初日のみ、窓口販売10:00~、電話予約・オンライン購入13:00~

プレイガイド 下関市民会館、ドリームシップ、下関市民会館オンラインチケット

●主催:公益財団法人下関市文化振興財団、国立映画アーカイブ ●特別協力:文化庁、(社)日本映画製作者連盟、全国興行生活衛生同業組合連合会、(株)松竹
●協力:株式会社オーエムシー ●後援:下関市、下関市教育委員会、下関市文化連合会



新型コロナウイルス感染症
拡大防止対策にご協力ください

【大切な
お願い】

コンサートを安心安全に開催するため、様々な制限や
対策へのご理解・ご協力をお願いいたします。
※最新の情報は下関市民会館ホームページをご確認ください。



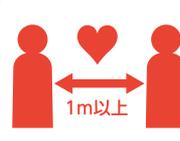
マスクの着用



手指の消毒



検温



ソーシャルディスタンス
1m以上

Twitter

Instagram

「下関市民会館」「ドリームシップ」公式アカウント更新中!

お問合せ

公益財団法人 下関市文化振興財団 TEL.083-231-6401
ホームページ … <https://scpf.jp>



QRコードはこちら

上映作品のご紹介

日本映画の量産時代に登場した監督たちが、喜劇映画のなかで新たな挑戦を試みた秀作を紹介。

おかしな奴

1963年 東映(東京)
白黒/シネマスコープ/モノラル/110分



【スタッフ】

脚本 鈴木尚之
監督 沢島忠
撮影 藤井静
照明 原田政重
録音 小松勝
音楽 佐藤弘
美術 北川

【出演者】

三遊亭歌笑 渥美清
おひさ子 美田佳子
春藤ふじ子 三田洋子
歌笑の父 高水吉
母やす 加藤清
藤田三吉 清田中邦
兄弟子しゃもじ 佐藤健二
三遊亭金楽師匠 石山久雄
八師匠 八木悦
あんま宅 渡辺
とん平 春風亭柳朝

【解説】

自ら「珍顔」を名乗り、戦後の落語界で爆発的な人気を誇った風変わりな落語家、三遊亭歌笑(1917～50)の短い人生を描いた東映作品。歌笑を演じた渥美清にとって、この映画は「拜啓天皇陛下様」(1963、野村芳太郎監督)やアフリカを舞台にした「ブワナ・トシの歌」(1965、羽仁進監督)と並んで「寅さん」以前の代表作と言えるだろう。監督の沢島忠は東映の中でも新しい世代に属し、中村錦之助(後に萬屋錦之介)主演の時代劇「一心太助」シリーズ(1958～63)など、フットワークの軽い演出で知られる。実在の歌笑はナンセンスな笑いを得意としたことで知られたが、沢島監督はあえてこの落語家の生涯を、滑稽な笑いばかりでなく、夫婦愛を軸にそこはかない哀しみを込めて描いている。やがて名作「飢餓海峡」(1964、内田吐夢監督)を執筆することになる脚本家鈴木尚之や、数々の黒澤明作品に音楽を提供した作曲家佐藤勝など、スタッフ陣の豪華さでも注目に値するだろう。

喜劇 急行列車

1967年 東映
カラー/シネマスコープ/モノラル/90分



【スタッフ】

脚本 舟橋和郎
監督 瀨川昌治
撮影 飯村雅彦
照明 元持秀忠
録音 小松忠
音楽 木下川弘
美術 北川

【出演者】

青木木吾 一子
塚田吾 子川子
古藤洋 子田み
遠藤洋 子田井
塚あ け 男
銀今 け 婦
すそ の 情

渥美清 美田佳子 美田洋子 三田洋子 加藤清 清田中邦 佐藤健二 石山久雄 八木悦 渡辺 石山久雄 八木悦 渡辺 石山久雄 八木悦 渡辺

【解説】

1967年から翌68年にかけて東映で3本が製作された喜劇シリーズの第1作。旧国鉄の協力を得て、東京と九州を結び寝台特急で巻き起こる悲喜こもごもの騒動を描き、おっちょこちょいだが人情味あふれるベテラン車掌を渥美清が好演している。監督はプログラム・ピクチャーの名手・瀨川昌治。本シリーズの成功を機に松竹に招かれ、1968年にフランキー堺主演の「喜劇 大安旅行」を発表。こちらも1972年の「喜劇 快感旅行」まで計11本を数える人気シリーズとなったほか、1970年代以降はテレビで「赤い」シリーズや「スチュワーズ物語」を手掛けたことでも知られる。一方の渥美清は1968年にテレビドラマ「男はつらいよ」そして翌69年の映画化で演じた「フーテンの寅」こと車寅次郎役が絶大な人気を博し、以来26年間に48作を記録する国民的大シリーズに成長してゆく。

吹けば飛ぶよな男だが

1968年 松竹
カラー/シネマスコープ/モノラル/91分



【スタッフ】

脚本 森崎東
監督 山田洋次
撮影 高羽哲夫
照明 戸井田泰
録音 小尾幸魚
音楽 山本直純
美術 重田重盛

【出演者】

三花 一郎
不鉄 方先
ガ 生清
お 解 役

なべおさみ
緑魔子
犬塚弘
芦屋小雁
佐藤次郎
有島一
ミヤコ蝶々
小沢昭一

【解説】

大阪の街を舞台に、やくざの幹部に憧れるチンピラと九州から出てきた家出娘の恋模様を描いた山田洋次監督の秀作コメディ。最初チンピラの三郎は家出娘花子をだまして金を稼ごうとするが、善意のかたまりのような花子の無垢さに打たれ、やがて心のつながりを感じてゆく。当時、若手コメディアン成長株であったなべおさと、一風変わった存在感を放つ女優緑魔子が不器用な「連帯」で結ばれた二人を好演したほか、ミヤコ蝶々、犬塚弘といった助演陣、さらには小沢昭一による活弁調の解説もこの作品に独特の彩りを添えている。山田監督は、この作品に込めたのは「アホなチンピラ」のおかしさであると後に述べたが、その一方でほろ苦い結末の描き方も魅力となっている。脚本はほとんど森崎東が執筆しているが、社会の決まり事から外れた世界で生きる人々への共感、後の「フーテンの寅」像にもつながるだろう。「キネマ旬報」ベストテン第10位。

あゝ軍歌

1970年 松竹
カラー/シネマスコープ/モノラル/89分



【スタッフ】

原作 早坂暁
脚本 前田敬一
監督 前田陽一
撮影 加藤正幸
照明 佐久間丈彦
録音 平松時夫
音楽 大森盛太郎
美術 芳野尹孝

【出演者】

福力田勝造 フランキー堺
松トヤ 津一
桜子 倍賞千恵子
婆 さん 北林谷
さ 子 城野栄
ネ 子 才 間 美
七 多 一 大 村 子
多 一 医 人 見
崎 多 一 長 上 田 吉 二

【解説】

戦争中、精神障害の真似をしてわざと野戦病院に入り、死を逃れた二人の男は、その後、戦没者をまつ神社へ遺族を案内する怪しげな観光ガイドとして暮らしていた。その男たちのもとへお婆さん、未亡人、少女、ヒッピー風の男が次々と迷い込んでくる奇妙な生活を描いたこの作品は、1960年代以降の松竹喜劇を支えた前田陽一監督の代表作である。そこに息づく屈折した批判精神には師匠の渋谷実監督の影響も垣間見える。その作風について、主演のフランキー堺は、「旅行」シリーズの瀨川昌治監督の「軽喜劇」に対する、前田作品の「重喜劇性」と説明して敬意を表した。劇中の所々に軍歌が挿入されて作品のリズムを築いているが、この映画で「歌」が作品の血肉となっているように、前田監督は歌謡映画にも定評があり、「進め! ジャガーズ 敵前上陸」(1968)などのヒット作を送り出した。